

## 会議録

会議名	令和6年度(2024年度) 第5回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	
日時	令和6年(2024年)8月2日(金) 午後3時30分～午後5時30分	
場所	八王子市役所 801会議室	
出席者氏名	委員	師岡章会長、荒井雄一副会長、石井淳委員、井上竜太委員、小楠安輝子委員、川越優紀委員、串田和士委員、櫻井励造委員、菅野周平委員、早乙女進一委員、千葉唯慧委員、内藤トシ枝委員、野中真理子委員、藤枝充子委員、前原教久委員、町田利恵委員、和田直也委員(会長、副会長、以下五十音順)
	説明者	古川由美子子ども家庭部長、原清子どものしあわせ課長、山田光子どもの教育・保育推進課長、齊藤宏保育幼稚園課長、坂野優一子育て支援課長、堀川悟青少年若者課長、小池明子子ども家庭支援センター館長、片岡健康危機管理担当課長、倉田直子放課後児童支援課長
	事務局	小野渉主査、矢部越理主任、山崎恵里子主任
欠席者氏名	森田亮委員	
議題	報告 (1)八王子市子ども・若者育成支援計画づくりに向けたアンケート結果の概要 議題 (1)八王子市子ども・若者育成支援計画(令和5年度分)の取組状況及び評価について (2)次期計画の基本理念等について	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	0人	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	

### 配付資料

- 資料1 委員名簿
- 資料2 八王子市子ども・若者育成支援計画づくりに向けたアンケート結果の概要
- 資料3 点検評価報告書(案)
- 資料4 次期計画の基本理念等について
- 参考 こども大綱

【原子どものしあわせ課長】

ただ今から、八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会令和6年度第5回会議を開催します。

本日は、委員18名中、出席者が17名で、開催要件を満たしております。なお、本日は森田委員から欠席の連絡を受けております。また、小楠委員、井上委員が途中退席をされる予定です。

続きまして、配布資料の確認です。まず、本日の会議の次第です。次に、(資料1)委員名簿、(資料2)八王子市子ども・若者育成支援計画づくりに向けたアンケート結果の概要、(資料3)点検評価報告書(案)、(資料4)次期計画の基本理念等について、の次第を含めて5点となります。資料の不足がある方はいらっしゃいますでしょうか。

次に、本日が初めてとなる委員の紹介をします。私から、所属とお名前を紹介いたしますので、簡単に自己紹介をお願いします。東京都立八王子拓真高等学校の早乙女 進一委員です。では、早乙女委員から自己紹介をお願いします。

【早乙女委員】

都立八王子拓真高等学校の早乙女と申します。何卒よろしくお願いいたします。

【原子どものしあわせ課長】

続いて、令和6年7月16日付で委員変更がありましたので、紹介いたします。八王子市民活動協議会 高倉 裕香委員から野中 真理子委員に変更となりました。では、野中委員から自己紹介をお願いします。

【野中委員】

八王子市民活動協議会理事の野中と申します。この審議会への参加は2回目になります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【原子どものしあわせ課長】

次に、参加する市側の職員に変更がありましたので紹介いたします。健康医療部大横保健福祉センター館長の及川から健康医療部健康危機管理担当課長の片岡に変更となります。

【片岡健康危機管理担当課長】

今年度から母子保健の担当をしております、片岡と申します。よろしくお願いいたします。

【原子どものしあわせ課長】

では、ここからは進行を会長をお願いします。

【師岡会長】

では、始めに報告事項の次期計画の策定に向けたアンケート調査の結果についてです。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料2「八王子市子ども・若者育成支援計画づくりに向けたアンケート結果の概要」に基づき、一括説明。

【師岡会長】

では、皆さんから質問されたいことはありますか。藤枝委員、お願いします。

【藤枝委員】

若者の調査は15歳～29歳までの6,000名となっており、5歳刻みで2,000名ずつ、3つの年齢区分で調査をしたとのことですが、資料の「2 将来の夢や目標」では4つの年齢区分で割合を出しています。その理由について、教えていただけますでしょうか。

【事務局】

調査としては、15歳～29歳を5歳刻みの3区分に分けて調査をしたのですが、回答が集まった後、担当課と相談をしたところ高校生や大学生、社会人など、節目と合わないということになり、分析の段になって4区分に分けたという状況です。

【藤枝委員】

では他の質問項目においても、年齢区分で分析をする場合は4区分で出しているということでしょうか。

【事務局】

おっしゃるとおりです。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。前原委員、お願いします。

【前原委員】

今回は結果の報告で、今後についてはこれからの検討になると思いますが、気が付いたことが何点かありますので、お伝えします。

まず、児童・生徒のアンケートについては、対象者の半数以上が回答しており、かなり回答率がいいと思います。結果を見ると、設問2の「自分自身のことが好きか」や設問3の「大切にされていると思うか」は、小学生より中学生の方が「自分自身が好き」「大切にされていると思う」と回答した割合が低くなっていることが気になりました。

若者に対するアンケートについては、有効回答率が約2割ということで少ないですね。アンケートをお願いした対象者の取り巻く環境が違うため、回答率が低いのかなと思いました。設問2「将来の夢や目標」では、19歳～22歳が「夢や目標がある」と回答した割合が一番高く、次いで15歳～18歳となっています。夢や目標を持っていたが、年齢が上がるにつれて壁にぶつかり、夢がしぼんでしまうのでしょうか。ただ、30歳より前ですので、まだまだ夢を膨らませてもいいのではと思います。

次に設問5「地域活動やボランティア活動の参加状況」についてです。その後の設問で定住意

向を聞いており、定住意向がある人は 67.5%となっています。八王子が好きだから住み続けたいと思っているのではないのでしょうか。だとすると、ボランティアに参加したと回答した人は約 2割ですから、少ないのかなと思います。単純に忙しくて時間がないからボランティアに参加できないのかということなのか、少し疑問に思いました。

また、設問 7「若者を応援していくために望む施策」で、活躍する場所がないなどが、いくつか挙がっています。地域の人がそういう場所を提供していないからボランティアに参加したいけどできないのか。あるいは、やりたいことを上手くカバーできていないため参加できないのか、というのは今後考えていかないといけないと感じました。

【師岡会長】

他にある方いらっしゃいますか。櫻井委員、どうぞ。

【櫻井委員】

平成30年のアンケートの結果を見ていますが、今回のアンケート資料というのは、前回と同じ質問項目で調査した中の抜粋版ということですよ。質問項目の中で、理由を聞いておいた方がいいものもあると思います。例えば児童・生徒のアンケートでいうと、「自分自身のことが好きか」や「大切にされていると思うか」というところで、「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」と回答した子はいいとして、「そう思わない」や「どちらかといえばそう思わない」と回答した子には理由も聞いた方が、次の計画に使用するアンケートとしてはより効果的だと思います。

【師岡会長】

今、櫻井委員のご発言にもありましたが、このアンケート調査が次期計画のベースになるということもあります。どのように結果や実態を捉えて、施策に活かしていくのがいいか、そういった部分もお気づきの点がありましたら、ご発言いただければと思います。

石井委員、お願いします。

【石井委員】

就学前児童の保護者のアンケートの設問 7「今後も八王子市で子育てをしたいと思うか」で、「子育てをしたいと思う」と回答した人が 77.1%というのはかなり高い数字だと思います。分析の中で子育てをしたいと思わない理由は記載されていますが、子育てをしたいと思う理由には何かあるのでしょうか。

【事務局】

計画の策定に活かしていくという観点から子育てしたくないという理由しか取っていません。他の世論調査等では聞いていたりしますので、そちらを活用していきたいと思っています。

【石井委員】

八王子市の保育士の配置基準は全国の中でも非常に優れているという実態がありますので、ぜひその部分を反映して、今後活かしていただければと思います。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。野中委員、お願いします。

【野中委員】

アンケートの結果は平成 30 年に実施したものと比較したとのことですが、「自分自身のことが好きか」や「大切にされていると思うか」など、八王子市と日本全体との比較や、世界の子どもたちとの意識の違いなどを比較できると、新しい見方が出てくると思いました。

【事務局】

調査対象や調査方法は違いますが、国がランダムで調査し、諸外国と比較したもので、日本は諸外国より自己肯定感が低いという結果を確認した記憶があります。また、情報提供できるような数値があるかは確認して、ご報告させていただきます。

【師岡会長】

私を知る範囲でも、子どもの自己肯定感や若者の夢という話は、30 年程前から国で調査されています。そして、事務局から話があったように、国際比較をすると日本の子どもたちは相当低いです。自己肯定感でいえば、欧米では 8 割～9 割くらいが持っています。アジアはどうしても自分自身のことを謙虚に捉える傾向にあるから数字が低いのでは、という読み取りもありましたが、お隣の韓国や中国と比べても相当低く、一体これはどういうことだ、と国や有識者の中でも検討されています。夢についても、欧米や近隣の中国、韓国と比べると圧倒的に低いんですよ。欧米では 9 割くらいが夢を持っていて、将来大統領や宇宙飛行士になりたいなど、まさに夢そのもの。一方日本では、ユーチューバー、会社員、公務員など、非常に現実的です。それもリアリティがあっていいとは思いますが、もう少し自分の将来像やビジョンを持つということを期待したいのですが、残念ながらなかなか思い描けない子どもや若者が多いです。これは子ども個人だけではなく、社会の在り方にも関わってくる話で、そういったことも念頭に置きながら、次期計画を作っていく必要があると思います。

また、ついでに言えば親御さんたちについても孤立化が目立ちますし、ひとり親であれば経済的な問題、いわば貧困化というのが非常に大きく、行政のネットワークで支えていくのと同時に、十分に手当てしていく必要があります。繋がりがだけで人が幸せになるかということそんなに単純じゃないというところがあり、特にこうした行政の政策というと、そういった部分もいかに手厚く支援していけるかを考えていく必要があります。そういうことが少し見えてくるアンケート結果として読み取れると良いと思います。

ちなみに、文科省や内閣府などで「自己肯定感」や「諸外国との比較」、「調査」などのキーワードを入れるとたくさん出てきますから、ぜひ皆さんも検索しながらアンケートを深く読み取ってけるといいかもしれません。

では千葉委員、お願いします。

【千葉委員】

若者のアンケートの設問 5「地域活動やボランティア活動の参加状況」について、1 点ご提案としてお話しさせていただきます。私自身、ボランティアに参加する子たちがどういう理由で参加す

るのが気になる、論文を読んだり、周りにアンケートを取って分析してみたのですが、大学生のボランティアに参加する動機は高校生とは違って、少し特殊ではないかと考えています。例えば、高校生はクラスがあるので、友人関係がクラスの中で構築されます。対して大学にはクラスがないので、ボランティアに参加することで人間関係を構築しようと思う人が多いのではないのでしょうか。全世代をまとめたものを「忙しくて時間がない」と出すよりは、高校生は高校生、大学生は大学生で別に集計を出した方がいいのではないかと思います。

#### 【師岡会長】

確におっしゃるとおりですね。アンケートでそこまで聞いたかは分かりませんが、実際参加した人たちの本音の部分を見てみると、高校生は入試のため、大学生は就職のため、というのが正直あると思います。益を得るためというのが、本来的なボランティアのあり方をゆがめることに繋がっているとは思いますが、例えば推薦ですと、ボランティアをしているかというのが面接でも調査票でもやたら聞かれますし、それは就職試験でも同じです。これもある意味で社会の仕組みの話になるのかもしれませんが、子どもたちのこういった参加状況やメンタリティを左右している部分があり、単に参加が多い・少ないだけでなく、質も見ていかなくてはいけないかもしれませんね。ですから、ご指摘のように年齢層を分けて見ていくことも必要かもしれません。

では和田委員、どうぞ。

#### 【和田委員】

児童・生徒のアンケートの設問4「八王子市への定住意向」について、小学校5年生や中学校2年生に聞いて、ここからどのような分析結果に繋げていくのか気になりました。小学校5年生や中学校2年生は自分で住む場所を選べません。その中で、「すぐにでも移りたい」と回答した子は、何かSOSが出ているんじゃないかなとも思いますし、そういった見方もできるのではないのでしょうか。他の設問に比べて異質だなというのを感じました。

#### 【事務局】

シンプルに八王子に対してどういうイメージを持っているかというところからも、まちづくりのヒントが得られる部分があると思います。また、細かい分析はまだなのですが、設問2「自分自身のことが好きか」と設問3「大切にされていると思うか」をクロス分析し、「自分自身のことが好きではない」と回答した子の定住意向や、「大切にされていると思わない」と回答した子の定住意向など、設問間で分析をする時に使えると思っています。その他、今回の概要には載せていませんが、悩みを聞く設問もあるので、そういったものとクロスすることでどこから手を付けていけばいいのか分析できると思います。定住の質問に限らず全般的に、仮説を挙げているものに対して当てはまるかどうかという視点を持って作っていきます。

#### 【和田委員】

八王子市は好きですかという直接の質問はあるんですか。

#### 【事務局】

直接的に「八王子市が好きですか」という質問は用意していません。八王子のイメージを聞く

パートがあり、八王子市を都会だと思うか、アクセスがいいと思うかなどは聞いています。

【和田委員】

シビックプライドではないですが、ざっくりと子どもがどう思うのか、というのは大事だと思います。私なんかは中学生の頃、八王子はださいと刷り込まれていたのです。今はそういう子は減ってきていると思いますが、そういったところがなんとなく見えてくると面白いと思いました。

【師岡会長】

定住意向をニーズ調査に含みましょうというのは、国のひな形にはないですね。

【事務局】

独自のものです。子どもや若者に対するアンケートに関しては、国もひな形を示していないので、いろんなものを参考にしながら作成しています。定住意向については、世論調査で聞いていましたので、子どもはどう思っているのかなというところで入れています。

【師岡会長】

定住意向を把握したい背景のひとつには、郷土愛をどうやって持つか、そしてそれをどうやって醸成させるかということに、非常に関心を持っている層がいたりします。そういったところをどう評価するかというのは思案する余地があるかもしれませんね。

では、そろそろ本日の議題に移りましょう。まず初めに前回会議の確認事項について、事務局からご報告をお願いします。

【事務局】

それでは前回会議で確認事項となっていたものについて説明いたします。

○基本施策 18 選挙備品貸出の内訳について

施策 50「主権者教育の充実」の、選挙で使っている機材を学校に貸し出していますという部分で、実施している学校 25 校の内訳についてご質問がありました。選挙課に確認したところ、実施校の内訳は、中学校 20 校、高等学校 2 校、特別支援学校や盲学校が 3 校でした。基本的には選挙管理委員会からこういった取組みの情報を流し、手を挙げた学校にお貸ししているようです。

○基本施策 18 雇用奨励金の終了理由について

施策 51「若者の職場定着支援」の中で、雇用奨励金が終了した経緯についてご質問がありました。これについては補助金の種類が変わりまして、「学生の定住促進奨学金返還支援事業」というものに再構築されています。5 年間市に住み続けていただくと、在学中に貸与を受けていた奨学金の返還相当分(返還額の 1/2、市内企業に就職の場合は上限 10 万円/年、最大 5 年間)を交付する事業となっています。

○基本施策 18 若者が対象の学習講座の数について

指標「若者が対象となる生涯学習講座の数」で、最新の実績は 10 講座となっていますが、生

涯学習プランの2018年度の青少年講座開催状況が26講座となっているので、実績が少ないのでは、というご質問がありました。学習支援課に確認したところ、26講座というのは青少年講座の数で、対象が小学生や中学生も含んでいるため、そのうち若者対象の講座をピックアップしたのが10講座ということでした。

○基本施策20 大学コンソーシアム八王子の情報発信事業の部数について

施策58「学校・高校・専門学校・大学などの教育機関との連携による支援の充実」の中で、大学コンソーシアム八王子が発行している情報誌が24号だけ部数が多いのはどうしてか、というご質問がありました。学園都市文化課に確認したところ、24号は小中学生を対象とした大学の体験講座を掲載する号となっており、全小・中学校に配布しているため、30,000部と発行部数が多くなっているということでした。

【師岡会長】

ご質問された委員の方、いかがでしょうか。串田委員、どうぞ。

【串田委員】

学生の就労支援制度について、奨学金の返還に変更されたとのことでしたが、現在返還を受けている学生の人数はどのくらいになるのでしょうか。

【事務局】

令和4年度から始まった事業になりまして、昨年は15名の方を補助対象として認定したということは聞いています。実際に支援が始まるのは今年度からになります。

【串田委員】

申請をして認定された方は、今後5年間八王子にいれば補助が受けられるということですよ。ね。

【事務局】

そうですね。奨学金を返していく段で八王子に住んでいて、さらに市内に就職していれば、年間最大10万円、返還額の1/2相当、トータルで50万円分補助されるということです。

【串田委員】

八王子市の大学を卒業して、就職されている方ということですよ。ね。

【事務局】

大半の方は在学中の方で、奨学金をもらっている方だと思います。

【串田委員】

どの程度効果があるのかということですが、奨学金をもらって卒業した人のうち、どのくらいの方が補助を受けているかというのは分からないですよ。ね。

【事務局】

まだ制度が始まって浅いので、評価についてはこれから担当課と相談していきます。担当者の話では、認定した後すぐ市外に転出してしまって、補助を受けていない方も一定程度いるようで、定住に繋がっているのかというのは分からない部分もあるようです。

【串田委員】

八王子は学生が多いので、市内に定住して、就職してもらって学生を増やすというのがまちのためになると思います。奨学金をもらっている方に、こういう制度がありますが、補助を受けて八王子で働きたいですかというアンケートを取って、その数字を上げていくことが効果的なのかなと感じました。

【師岡会長】

他はありますか。櫻井委員、どうぞ。

【櫻井委員】

施策 50「主権者教育の充実」で、模擬選挙で投票事務を経験したりすることで主権者教育の推進に取り組みましたとありますが、主権者教育というのは政治や選挙の仕組みを知るだけでなく、今後社会を生きぬく力や課題解決に主体的に取り組めるか、というところがあると認識しています。主権者教育の推進に取り組みましたというのが、どこまでされているかは分かりませんが、あくまで模擬投票や選挙事務を経験することはツールであって、その先の目的に向けて、どのように取り組むご予定でしょうか。

【事務局】

主権者教育自体は学校だけの話ではないと思いますが、選挙管理委員会以外から主権者教育に関する取組は挙がらなかったのも、改めて主権者教育の視点から市としてどういった活動をしているか調べ、活動があるようでしたら、ご報告します。

【師岡会長】

早乙女委員、拓心高校に限らず周辺の高校等で、どのような狙いを掲げて主権者教育の取組を実施しているなど、ご存じでしょうか。

【早乙女委員】

うちの高校でも主権者教育をやろうとはしていると思いますが、実際難しい部分が多いです。

【師岡会長】

井上委員、中学ではいかがですか。

【井上委員】

選挙管理委員会からのこのような貸出は、かなり前から多くの自治体で行っていると思いま

す。成年年齢や投票権の年齢が下がった中、卒業してそのまま社会に出る子もいますので、義務教育最後の段階で社会参画という意味での役割や指導がより一層大切になってきていると思います。

【師岡会長】

前原委員、いかがですか。

【前原委員】

主権者教育を教育現場でやってほしいと要望するのか、学校から自主的に要請をするのかで変わってくると思います。たまたま、学校でこのようなことができるからやってみませんか、と明るい選挙推進委員から提案を受けました。選管に連絡してみたら、学校から提案してくださいというように言われたので、流れとしてはそのようにやっているみたいですね。いろいろな主権者教育がある中での一つとしてこれを進めるのであれば、中学校 20 校というのは全中学校の半分ですから、もう少し実施が増えるようにした方がいいのではないかと思います。

【師岡会長】

ありがとうございます。前回会議の確認事項について、よろしいでしょうか。

では続いて、計画の取組状況及び評価についてです。八王子市子ども・若者育成支援計画の令和 5 年度の取組状況や評価について、今補足された部分も含め、全体を通して一緒にご確認いただければと思います。評価はこの分科会で確定したものがそのまま入力されています。また分科会のコメントは、皆さんからいただいた意見や議事録を元に私の方で整理させていただきました。まずは、分科会の評価欄について、何かある方はいらっしゃいますか。

では、何もないようですので、事務局から今後の課題について、ご説明いただけますか。

【事務局】

資料3「点検評価報告書(案)」に基づき、今後の取組について一括説明。

【師岡会長】

ただいまご説明いただいたことについて、ご質問等ある方いらっしゃいますか。菅野委員、どうぞ。

【菅野委員】

今のご説明にはなかった部分なのですが、基本施策 19 の今後の取組の中で、若者なんでも相談窓口は「引き続き利用対象者を狭めることなく…」と記載されています。おそらく評価の「非行歴がある若者が対象外となるケースも想定される」というところを指しているのかと思いますが、若者なんでも相談窓口では非行歴がある若者も対象外にしていません。かといって本人が相談援助を望むかどうかという課題はありますが、ただ、積極的に対象外にしているわけではないという認識だけ共有させていただきたいと思います。

【事務局】

市としても、対象外にしていないという認識ですし、今後も非行歴がある方を対象外とする想定はしておりません。センターに限らずそういった方が来られた際、適切な支援が行っていきけるようにしていきたいと考えています。

【師岡会長】

他はいかがですか。川越委員、お願いします。

【川越委員】

基本施策6の施策17「子育て応援企業への支援の充実」についての意見です。実際に働きながら子育てをしている親としては、子どもが風邪をひいたときに休みやすい体制が取られている企業が増え、より働きやすい親が増えてほしいという思いがあります。市内に利用しやすい企業が増えることももちろん大切ですが、市民が働く場所としてお互いに支え合える企業を増やしていくという取り組みを進めていただきたいです。

【師岡会長】

他はいかがですか。早乙女委員、お願いします。

【早乙女委員】

私は八王子市在住ではないのですが、先日妻から子どもが子ども食堂に行ったという報告を受けました。800円くらいの海鮮丼をタダで食べてきたと言っていましたが、八王子市内にも普通のお店とかで食事を提供していたりするのでしょうか。

【事務局】

市のネットワークに登録している団体の中ですと、居酒屋が営業前に子ども食堂をしているというケースはあります。お店のメニューが提供されるかは日によって違うと思いますが、子どもは無料で食べることができます。

【早乙女委員】

ぜひ子どもたちに八王子ラーメンをタダで食べさせてあげたいです。ラーメン屋のすぐ側に住んでいるのに、食べたことないという家庭の子もいますから。

【師岡会長】

町田委員、何か子ども食堂や飲食店でご存じのことはありますか。

【町田委員】

私も子ども食堂は非常に興味を持っています。私のところも飲食店なので、実施したいとは思いつつ、コロナの流行で思うように体制が整っていないというところなんです。子ども食堂とはいってもお子さんだけでなく、皆さんの交流の場にもなるとお思いますので、そういった場所が八王子に根付いていくとコミュニティもできるとお思いますし、八王子に定住したいという思いにつながるのかなと思います。

ちょうど当てていただいたので、質問させてください。基本施策 15「ひとり親家庭の支援」や基本施策 16「子どもの貧困対策の推進」とありますが、ひとり親家庭のお子さん自身へのアンケートは取っているのでしょうか。

【坂野子育て支援課長】

子どもへの直接のアンケートですと、イベントを開催した際に参加した親御さんと子どもに対して、イベントはどうだったか、今後どんなことをやりたいかを聞くようなものは取っています。

【町田委員】

先程、児童の多幸感という話もありましたが、いずれはそういったところにリンクされると思いますので、お子さんに配慮しながらも八王子市として指針のようなものが残っていくといいのかなと思いました。

【師岡会長】

先程の早乙女委員の子ども食堂の件、ご謙遜されて質問されていましたが、決して笑い話で済んでいいものではありません。最初のアンケートでも、ひとり親家庭の経済的な困窮というのは困難さのトップと言っているんですよね。子ども食堂はもちろん子どもが対象ではありますが、親御さんも一緒に利用できる施設をもっと拡充することが、そういった家庭自体を支えることにつながりますので、そういったご指摘だと受けとめて、施策に反映させていく必要があると思います。

では和田委員、どうぞ。

【和田委員】

全国子ども食堂支援センターむすびえという団体がありまして、私は立ち上げから関わっています。その立場から知っている限りのことをお伝えさせていただきますと、むすびえでは毎年、箇所数調査というのをやっています。全国に子ども食堂がどのくらいあるのかというのを数値化しており、昨年度時点で 9,132 か所という数が確認されています。むすびえが確認できていない食堂も無数にありますので、実際はもっと多いと思います。

子ども食堂という名前なので、基本的には食べるのに困っている子たちを対象とした貧困対策という見え方をされがちですが、場所によっては地域食堂やみんな食堂など、子どもだけでなく誰でも来ていい食堂もあります。子ども食堂は定義があるわけではないので、9,132 か所あれば、9,132 通りのやり方があります。

八王子市では立ち上げ支援講座をやっているということで、これは結構大きなことだと思います。むすびえとしては、自治体の力が弱くなってしまっていることから、子ども食堂が一部機能を持ってきている部分があると思います。また、地域のコミュニティづくりとして子ども食堂が力を持ってくるとも考えていますので、もっと数が増えるといいなと思います。一方で X などを見ると、自治体や政府がやることなんじゃないか、子ども食堂なんてものがあるのが異常ではないか、という声もあり、メリット・デメリットのメリットの部分強調していけたらいいなと思います。

【師岡会長】

いずれにしても、子ども食堂の拡充というのが次期計画でも重要になってくると思います。他はいかがでしょうか。野中委員、お願いします。

【野中委員】

協議会でボランティアの方に対してイベントを行う際、子ども食堂をやってみたいという方が非常に多くて、市民の方の関心が本当に高いのだと思います。ただ、活動場所がないというのが問題で、自宅では難しいし、活動場所があるのであれば周りの人とグループを作ってやりたいという方が結構いらっしゃいます。市の空き家の活用や、以前むすびえを通して優先的に市民センターを借りられるように相談したこともあります。活動したい人が活動しやすいような環境をつくるということは大切だと思います。

また、私がほっこり食堂という子ども食堂を立ち上げた経験から現状を申し上げます。貧困支援のための子ども食堂というのが社会的に認められてきてしまったのか、子ども食堂に行けばもらえるという情報が定着してきたのか、コロナが流行してから、子ども食堂の食料配布に若者や職を失った中高年が訪ねて来ることがあります。みなさんが、コミュニティや居場所とってくださることはありがたいのですが、現場のスタッフからすると、あなたは本当に貧困なんですか、本当にひとり親家庭なんですか、といちいち聞かなくちゃいけないんです。本来は地域の人たちの小さな善意からなる市民活動でしたが、子ども食堂が行政の貧困支援という位置づけにされていて、社会のひとつのコマに入ってしまったということが、立ち上げた立場からすると違和感を感じます。本当にいろんな方がいらっしゃいますが、現場で本当に必要な人を見分けるというのはすごく難しい問題です。ですから、なんとなく数が増えればいいよねという意見もありますが、そういった実態も含めて考えていただければいいなと思います。

【師岡会長】

利用したいという方の中には、子ども食堂自体の敷居が高かったり、あまり面識のない方たちと食事するのも気が引けるので、ただ物品がもらえるのであればぜひという方は当然いらっしゃいます。フードパントリーの取組というのはこの報告書の中には出てこないですが、最近ではフードパントリーで、生理用品が買えない方に提供していたりします。うちの勤務する学校でもスケールは小さいのですが、日用生活用品を含めたパントリーを行っているので、そういったものも次期計画に含みながら、子どもは勿論、若者に対する支援も含めた総合的な家庭への支援を拡充していくといいかもしれませんね。

【原子どものしあわせ課長】

先程の野中委員のご発言についてですが、市民センターで活動される子ども食堂も多くあるのですが、市として優先的に予約できるような対応をしているところです。

【師岡会長】

では、他になければ、本日いただいたご意見やご指摘を踏まえまして、私と事務局で最終調整をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

次に、議題(2)次期計画の基本理念等についてです。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料4「次期計画の基本理念等について」に基づき、一括説明。

【師岡会長】

皆さんから、意見やご質問はありますか。藤枝委員、どうぞ。

【藤枝委員】

5 ページ目の「夢と権利をまもる」と言った時の夢をまもるというのは、子どもたちが夢を持つために必要になる体験や経験の機会を、全ての子どもたちに保証するという意味でのまもるという理解で合っていますか。

【事務局】

おっしゃっていただいた場合もまもるの内に入っているという理解でおります。それ以外にも、夢自体を持つこと自体の機会や夢を持てるような環境を大人が整えていくなど、そういった意味合いも含まれています。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。菅野委員、どうぞ。

【菅野委員】

もともと子ども家庭庁ができた折から、若者支援業界の中で、若者施策がどんどん埋もれていくのではないかと懸念がありました。もちろんそうではないですよというご説明をいただいたのですが、若者施策を子どもの施策に入れ込むことによって、連携の必要性の意識が逆になくなってしまっているのではないのでしょうか。

また、八王子市という特色を考えた時に、学園都市でもありますし、任意事業である若者総合相談センターもやっていますので、あえて子どもと一緒にせず、若者を基本施策に残すのもいいのではないかと思います。大元の国の方針などもありますので、難しい部分もあると思いますが、ご検討いただければと思います。

【事務局】

事務局としてもそういった受け止めがあるのではないかと、ということは検討の中で挙がりました。子どもと若者を一緒にするという説明はしましたが、子ども特有の課題、若者特有の課題、そして切れ目なく一体で考えた方がいい課題というのは様々あると思います。ご意見も踏まえて今後どうするべきか、引き続き検討する必要があると思いますが、基本方針を4つにして一体とする場合でも、冊子の中の表現として、若者特有の課題は固めて表現したり、若者の施策にはマークを付けたりすることで、若者施策を埋もれさせないようにつくりをしたいと考えています。

【師岡会長】

重要な点ですね。しっかりと確認しながら、策定していきましょう。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

次期計画で基本方針が5から4になるということですが、既に2024年の各項目に目標値は設定されているのですが、こういうものは変わってくるのでしょうか。

【事務局】

施策の実現に寄与する数値や事業を指標としているのですが、次の計画の目指す姿に合った指標かというのは一から見直しますので、引き継ぐ指標もあれば、よりよいものに変えていく場合もあると思います。

【和田委員】

今年から参加させていただいていますが、評価に関してはB率が高いなど率直に思いました。Bが多いということをして市としてはどう捉えているのでしょうか。目標が高いのか、それとも現実的なものなのか。なんとなく次年度の評価も、ある程度見えている部分があるのではないかなという気がします。それもBを想定するようであれば、目標値を見直す必要があるのではないかと感じました。

【師岡会長】

その点は毎年の評価でも意見が出てきたところですね。その一例としてファミサポもありましたね。目標値は変えられませんが、把握の仕方を実態に即していくことで、指標の実績というのを現実的なものにしたいと思います。ただ、理想は捨てるはいけないので、その辺のバランスをどうするかということが課題になりますね。

前原委員、お願いします。

【前原委員】

6ページの基本方針1のミライがカタカナで、その中の内容は未来と漢字を使っていますが、意味があって使い分けているのでしょうか。

【事務局】

基本的には先に進むという意味の未来は漢字を使っています。そして、これは市全体ではなく子ども・若者育成支援計画の中だけの話になるのですが、子どもや若者自身が将来を描くというシーンではカタカナのミライを使い、時点的な未来とは区別しています。ベースとなるのが、市政100周年記念事業のミライフォーラムや、毎年子どもが市長・教育長に提案する子ども☆ミライ会議などで、子どもが八王子のまちづくりに参加される事業の場合に使われることが多いので、それと子ども・若者育成支援計画での表記を合わせています。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。基本方針を5つから4つに整理するということは、いろんな施策をスリム化するというのではなく、より子ども・若者の関連性を意識していく中で整えていくというこ

とだと理解しました。決して若者の施策が埋没するというのではなく、より連動性のある施策、また理想を描きつつもしっかり現実を持った指標を次期計画で示してほしいという、皆さんの意見だったと思います。ですが、今日だけで決定ではありませんので、今後方針の具体的な施策をお示しいただきながら、引き続き議論していければと思います。

私個人の要望ということになりますが、例えば先程の報告書の保育・教育の質の向上の取組の中で「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」を策定し…」とありましたが、それはこども家庭庁が示しているものですよね。当然市としては、子ども家庭庁の動向、特に法的な文書や通知を踏まえながら、若者支援計画を策定されると思いますが、前期の分科会でももう少し教育的な観点も忘れてはいけないというご意見がありました。例えば文部科学省は「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」というものを出していて、議論継続中です。保育の所管云々というのであれば、こども家庭庁は認定こども園と保育園しか所管してなくて幼稚園は所管外です。だとすると、こども家庭庁や厚生労働省の動きだけ見ても適切な育成支援計画はできない、誤解を恐れずに言えば福祉的な観点しかなく、健全育成という観点からは正直物足りない部分があります。私が勉強していた時代はウェルビーイングが福祉だとされていました。ですが、実は福祉はウェルフェアだと言われ始め、マクロの視点から恵まれない人たちに自治体レベルでどう施すかということに集約されますが、そうではなく、もっと個人に目を向けて個人が自立するためにどういう福祉が必要なのかというところで、リバイバルでウェルビーイングが大事ということがまた言われ始めました。だとしたときに、より福祉的な観点を施策ではなくて、教育的な観点も加味していくというのは強調しておきたいと思います。どうしても児童福祉専門分科会の上には社会福祉審議会が乗っかっていて、その枠組みの中で若者育成支援計画を立てていくと、福祉的な色彩が強くなってしまいます。それは結構ですが、福祉だけでなく教育的なバランスを取っていくというのはどうしても重要になる、というのが方針でも、いろんな施策の上でも、考えていってほしいと思いますし、また、そういう観点も忘れずに次期計画の策定にコメントしていきたいと思っています。ぜひその点を事務局とも委員の皆さんとも共有していきたいと思っています。

ではその他、何かご質問等がなければ進行を事務局にお返しします。

#### 【古川子ども家庭部長】

先生が仰っていたことはそのとおりで、組織上福祉に偏ってしまうというところがあります。ただ、国の流れがすべてではありませんが、こども家庭庁ができて、福祉だけではなく、もっと大きな範囲で子どもをまんなかにおいた社会というのが言われる中で、八王子もそのようなまちづくりをしていかなくてはいけない、ということは議会からも言われており、市としてもそのように答弁をしています。いただいたご意見を大切に受け止めさせていただいて、教育委員会とも連携は取っていますが、より見える形に持っていきたいと思います。また、基本施策 3 の取組については、会長ともご相談しながら、そういった色がでるような取組内容にさせていただければと思います。

#### 【原子どものしあわせ課長】

今回の会議でございしますが、今回は 8/30(金)、時間はこれまでと変わりまして、午後2時から4時を予定しております。主な議題は、次期計画の、より具体的な内容について検討していく

予定でございます。開催通知につきましては、近くなりましたら、事務局からお送りしますので、出欠のご連絡をよろしくお願いいたします。

他になければ本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。

《閉会》